

平成30年度第3学年全国学力・学習状況調査の結果について

新見市立哲多中学校

I 到達度について（正答率％）の概要

国語、数学とも A 問題（基礎）は全国平均を若干上回っているが、B 問題（活用）は全国平均より若干低い。理科は全国平均をかなり上回っている。

2 各教科ごとの分析

	優れている点	改善を要する点	今後の対応
国語 A	「言語についての知識・理解・技能」に優れている。	文章を読み、自分の考えやその根拠を明確に表現する力をさらに伸ばす必要がある。	授業や家庭学習等で、文章を読み、自分の考えを書いたり発言したりする表現の活動を繰り返す。
国語 B	「国語への関心・意欲・態度」 「話す・聞く能力」に優れている。	文章の構成や展開について自分の考えを持つこと。 登場人物の言動などの意味を考え、内容の理解に役立てること。これらの力が十分でない生徒の割合が高い。	意見を伝えるための効果的な文章について、構成や展開に焦点を当てて考える機会を増やす。 登場人物の言動、会話、情景描写に着目して文章を読む習慣を身につける。
数学 A	「数と式」「関数」「資料の活用」で全国平均を上回っている。特に「資料の活用」の基礎で優れている。	「図形の理解」「規則を見つけて問題」「関数でグラフを読み取ること」などで十分理解できていない生徒の割合が高い。	主に2年時の学習内容について復習を重ね理解を深めさせる。家庭学習や授業の始めの時間を利用して復習を重ねる。
数学 B	図形の証明に関する正答率が高く、「平行四辺形についての数学的な見方や考え方」に優れている。	「数と式」「関数」「資料の活用」において、基礎的な理解はできているが、その応用力が十分身につけていない生徒の割合が高い。	該当の単元を中心に発展問題取り上げ、授業での発展的な学習を通して考える力を伸ばしていく。
理科	「物理的」「化学的」「生物的」「地学的」すべての領域について優れている。	「原子の記号や実験結果の値を読み取ること」の力が十分に身につけていない生徒の割合が高い。	原子の記号やイオン式の記号など必ず覚えるべきことを反復して学習する。また、実験機器の基本的な操作について、実験を通して理解を深め、復習により定着を図る。